

ポテンシャル

- 北海道新幹線の札幌延伸 [2030年度末]
- 冬季五輪の招致 [2030年]
- 都心アクセス道路(国道5号の機能強化)の検討



提供: JR北海道

課題

- 都市間・都市内バス乗降場の分散
- 国道5号を含む面的な交通混雑
- 災害時の交通と受入空間の確保



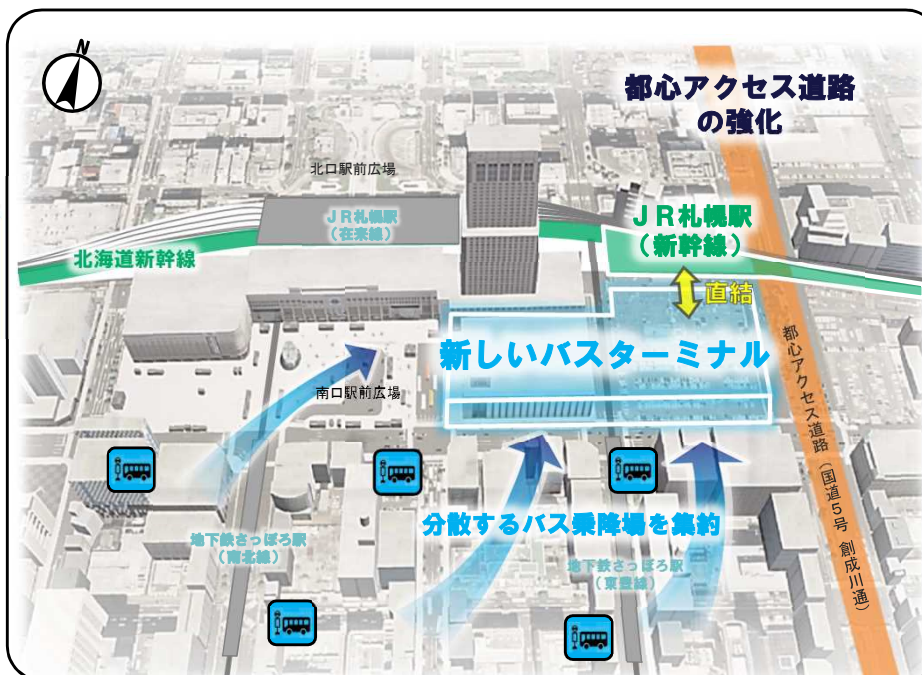
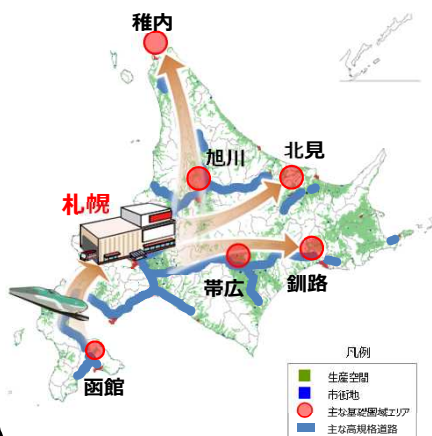
北海道胆振東部地震時の状況
(札幌駅地下歩行空間)

世界とのゲートウェイ・札幌

『北海道新幹線と高速バスが直結するバスターミナルの整備』

～全道に効果を波及させ、食と観光で全国に貢献する「生産空間」を支えます～

高速道路と連携した全道各地へインバウンド観光等の新たな人流を創出



① 観光機能の強化

- ・ インバウンドを含む観光案内所の設置
- ・ 観光MaaSの導入 等

② 防災機能の強化

- ・ 帰宅困難者等の受入空間
- ・ 情報提供施設の整備 等

③ 多様なモビリティとの連携

- ・ シェアサイクル
- ・ 新たなモビリティ 等

札幌駅周辺の将来の姿

札幌駅交通ターミナル整備
事業計画（概要）

4つの
基本
コンセプト

街並み形成

道都札幌の玄関口にふさわしい
新たなシンボル空間の創出

基盤整備

多様な交流を支えにぎわいを形成する交通結節
点機能の充実とバリアフリー化の推進

機能集積

北海道、札幌の国際競争力を
けん引する都市機能の集積

環境配慮・防災

環境にやさしく災害に強い
最先端の都心モデルの実現

4つの
整備方針

北海道新幹線と高速バスが直結する
バスターミナルの整備

観光機能の強化

防災機能の強化

多様なモビリティ
との連携

世界へつながる“さっぽろ”の新たな顔づくり ～道都札幌の玄関口にふさわしい空間形成と高次都市機能・交通結節機能の強化～

歩行者動線と待合空間の整備

利用者がわかりやすく快適に
バスを待つことができる待合
空間を整備
更に、災害時には一時避難場
所として機能し、代替輸送拠
点や物資集積拠点として活用



創成川上空 歩行者動線の整備

創成川の上空を横断する歩行者
ネットワークの形成により、創成
東地区との交通結節機能を強化



バスターミナルの整備

都市間バス、路線バスの集約
を基本としたバスターミナル
を整備
更に、札幌駅周辺において新
たなモビリティ等多様な交通
モードとの連携により交通結
節機能を強化



新幹線駅との連携

北海道新幹線札幌駅との
一体的な整備
更に、東改札口および交通
広場を整備し、新たな公共
交通システム等の二次交
通と接続することで、一大
交通結節点を形成



高速バスネットワークとの連携

高速バスネットワークとの連携に
より北海道特有の広域分散型地域
構造に適應した、より快適で効率
的な広域移動が可能となり新たな
人流を創出



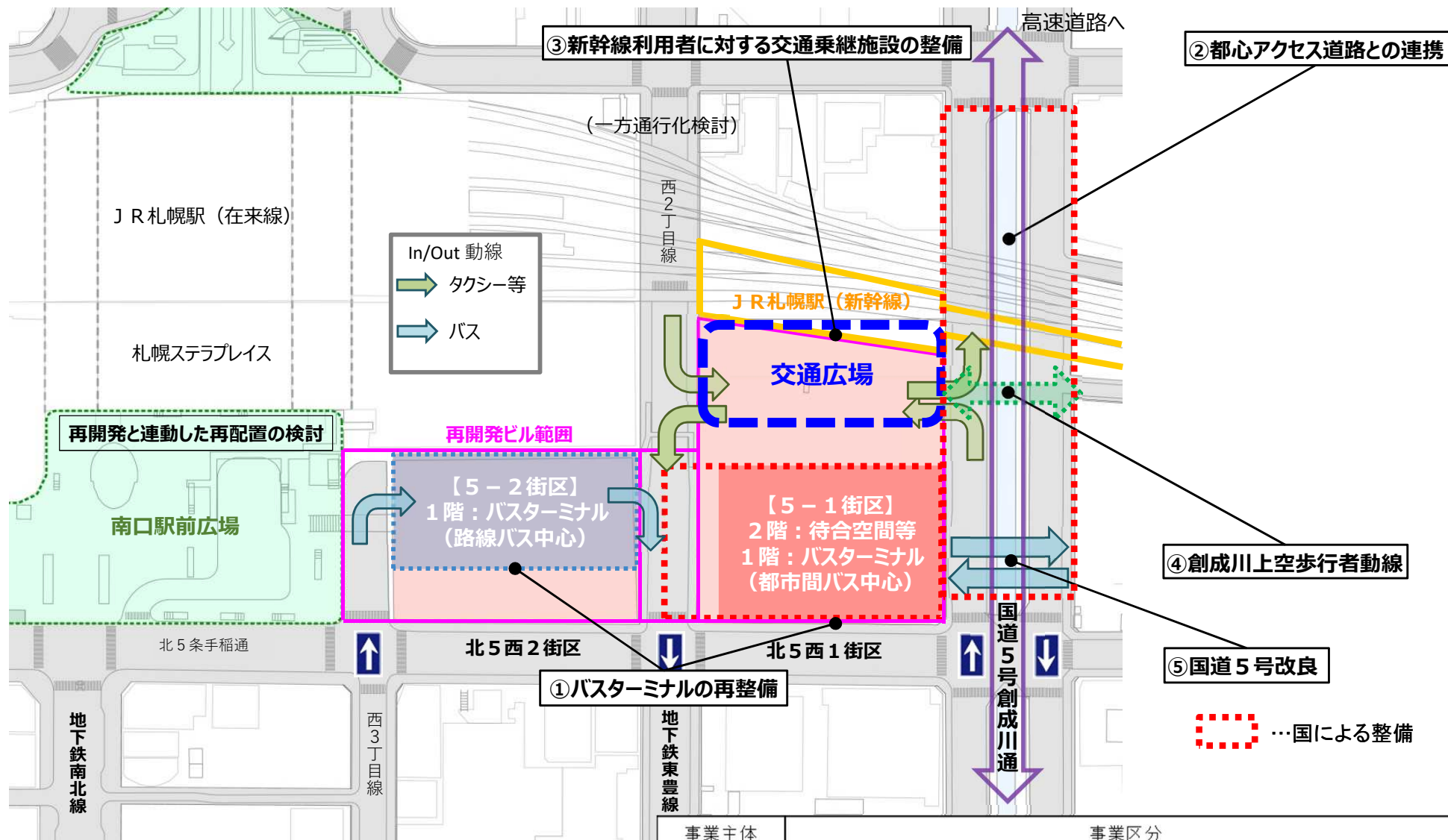
都心アクセスの強化

都心アクセス道路(国道5号
創成川通)の整備により、
交通混雑、
交通事故の
低減を図り、
都市機能を
最大化



※建物外観・形状はイメージであり、実態と異なる場合がある。

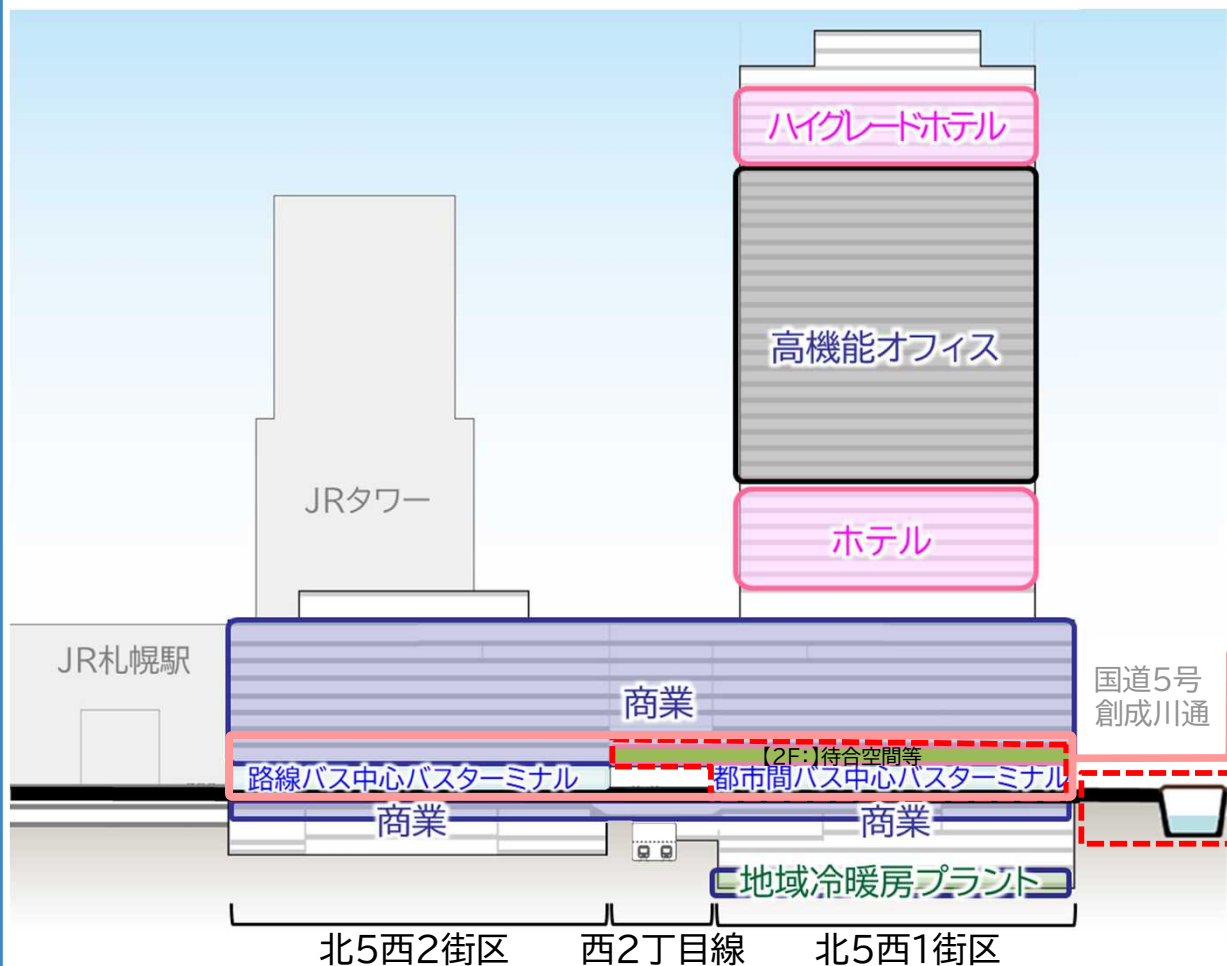
施設配置計画と事業区分【平面図】



図：基盤整備イメージ

事業主体	事業区分
国	特定車両停留施設(バスターミナル(都市間バス中心)・待合空間)、国道5号改良
札幌市	創成川上空歩行者動線、バスターミナル(路線バス中心)・再開発ビルへの補助
民間	バスターミナル(路線バス中心)、再開発ビル

再開発ビル



〈再開発ビルの構成イメージ〉

…国による整備

新しいバスターミナル

世界のゲートウェイ・札幌として、北海道新幹線と高速バスが直結する新しいバスターミナルを整備することで、観光機能の強化、防災機能の強化及び多様なモビリティとの連携を図る。



〈待合空間のイメージ(2階)〉



〈バス乗降空間のイメージ(1階)〉

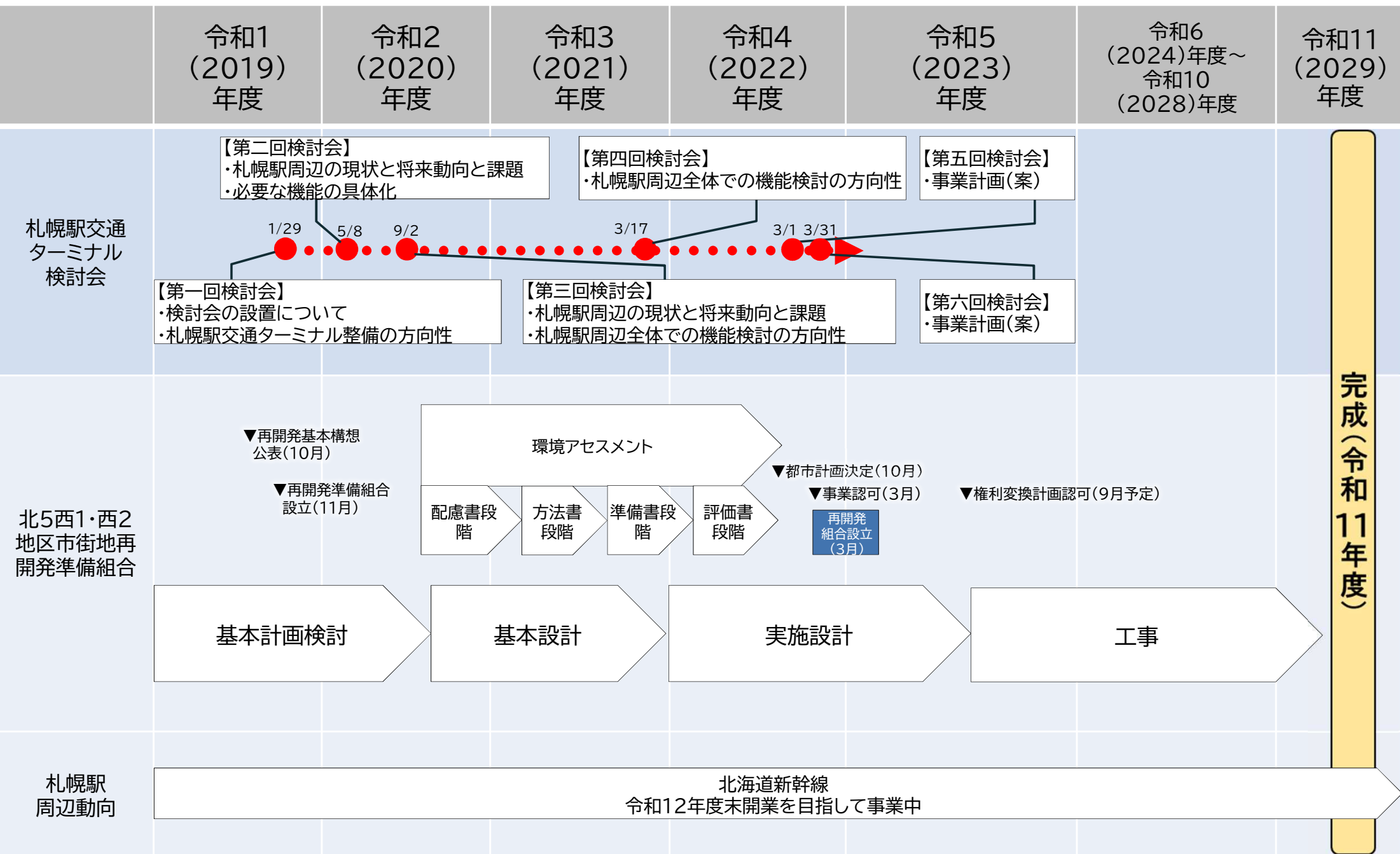


防災拠点

災害時に再開発ビルを一時滞在施設等として活用するとともに、新しいバスターミナルに鉄道の代替輸送機能及び多言語に対応した情報発信機器等を整備し、安全・安心な空間を創出する。

事業スケジュール

札幌駅交通ターミナル整備
事業計画（概要）

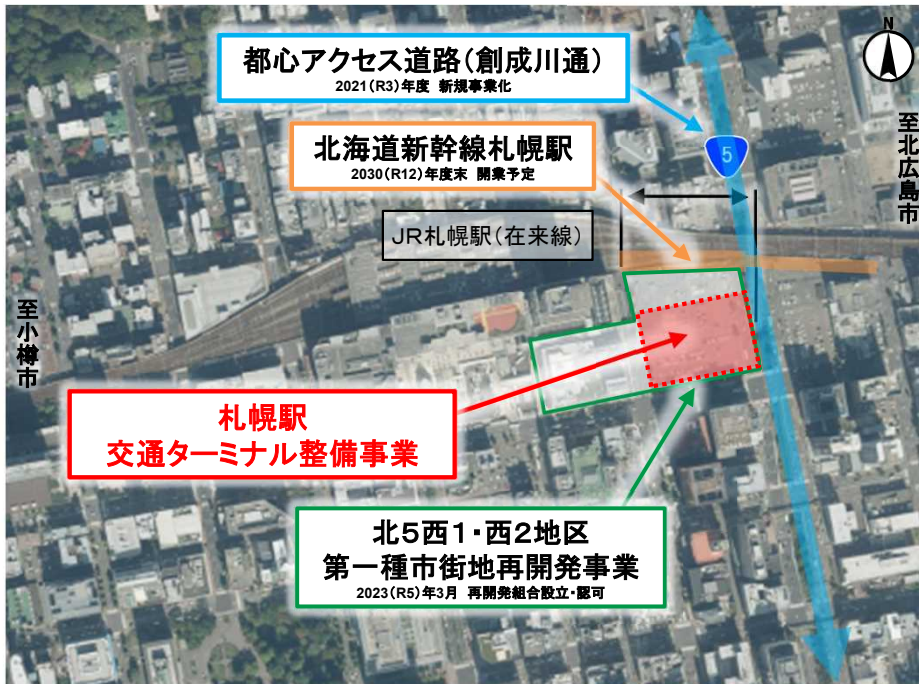


完成(令和11年度)

一般国道5号 さっぽろえきこうつう 札幌駅交通ターミナル整備事業の概要

札幌駅交通ターミナル整備事業計画（概要）

札幌駅周辺状況



札幌駅周辺の将来の姿

世界へつながる“さっぽろ”の新たな顔づくり

～道都札幌の玄関口にふさわしい空間形成と高次都市機能・交通結節機能の強化～

歩行者動線と待合空間の整備

利用者がわかりやすく快適にバスを待つことができる待合空間を整備
更に、災害時には一時避難場所として機能し、代替輸送拠点や物資集積拠点として活用

バスターミナルの整備

都市間バス、路線バスの集約を基本としたバスターミナルを整備
更に、札幌駅周辺において新たなモビリティ等多様な交通モードとの連携により交通結節機能を強化

高速バスネットワークとの連携

高速バスネットワークとの連携により北海道特有の広域分散型地域構造に適応した、より快適で効率的な広域移動が可能となり新たな人流を創出

創成川上空歩行者動線の整備

創成川の上空を横断する歩行者ネットワークの形成により、創成川東地区との交通結節機能を強化

新幹線駅との連携

北海道新幹線札幌駅との一体的な整備
更に、東改札口および交通広場を整備し、新たな公共交通システム等の二次交通と接続することで、一次交通結節点を形成

都心アクセスの強化

都心アクセス道路(国道5号創成川通)の整備により、交通混雑、交通事故の低減を図り、都市機能を最大化

※建物外観・形状はイメージであり、実態と異なる場合がある。

施設配置計画(案)

再開発ビル

再開発ビルの構成イメージ

…国による整備

新しいバスターミナル

世界のゲートウェイ・札幌として、北海道新幹線と高速バスが直結する新しいバスターミナルを整備することで、観光機能の強化、防災機能の強化及び多様なモビリティとの連携を図る。

バスターミナル待合空間イメージ(仮称)

<待合空間のイメージ(2階)>

<バス乗降空間のイメージ(1階)>

防災拠点

災害時に再開発ビルを一時滞在施設等として活用するとともに、新しいバスターミナルに鉄道の代替輸送機能及び多言語に対応した情報発信機器等を整備し、安全・安心な空間を創出する。

①バスターミナルの再整備

②都心アクセス道路との連携

③新幹線利用者に対する交通乗継施設の整備

④創成川上空歩行者動線

⑤国道5号改良

再開発と連動した再配置の検討

南口駅前広場

再開発ビル範囲

【5-2街区】1階：バスターミナル(路線バス中心)

【5-1街区】2階：待合空間等 1階：バスターミナル(都市間バス中心)

…国による整備

事業主体	事業区分
国	特定車両停留施設(バスターミナル(都市間バス中心)、待合空間)、国道5号改良
札幌市	創成川上空歩行者動線、バスターミナル(路線バス中心)・再開発ビルへの補助
民間	バスターミナル(路線バス中心)、再開発ビル

○新しいバスターミナル整備により、分散するバス停を集約し、モーダルコネク（交通結節機能）を強化。
○札幌駅交流拠点北5西1・西2地区再開発と連携して新たな交通結節空間を創出し、乗換・待合環境の改善、交通の円滑化、防災機能の向上を実現。

1. 事業概要

・事業箇所：北海道札幌市中央区北5条西1丁目～北海道札幌市中央区北5条西2丁目

・事業延長：0.2km
 ・全体事業費：約240億円

（ 周辺公共・民間事業
 新幹線札幌駅
 札幌ステラプレイス
 ホテル、オフィス、店舗 ）

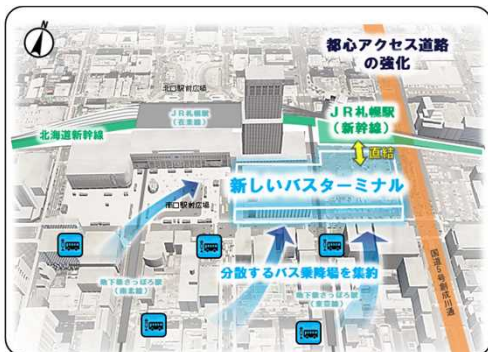


図1 事業位置図

2. 課題

①駅周辺の路上バス停の分散による利便性の低下

・駅周辺の路上バス乗降場が分散しており、乗り換えの利便性が低下（図2）。

・通路幅が狭くバス待ちの列と通過する利用者が錯綜し、円滑な歩行空間の利用を阻害（図3）。

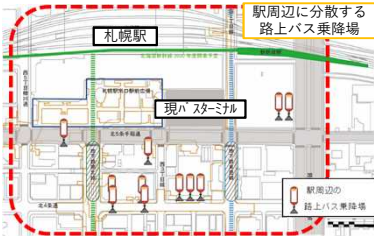


図2 札幌駅周辺のバス乗降場の状況



図3 バス待ちによる歩行者阻害

②国道5号を含む面的な交通混雑が発生

・札幌駅と高速道路を結ぶ国道5号は、主要渋滞箇所や信号の連担による速度低下が断続的に発生しており、中でも路上バス停が存在する北8条から北4条間では旅行速度が著しく低下（図4）。

・冬期は夏期に比べ速度が低下し一層の交通混雑が発生し、バス乗降場付近の交通阻害によりバス運行にも影響が生じている（図5、図6）。



図5 国道5号の交通状況



図6 札幌駅周辺の速度低下状況

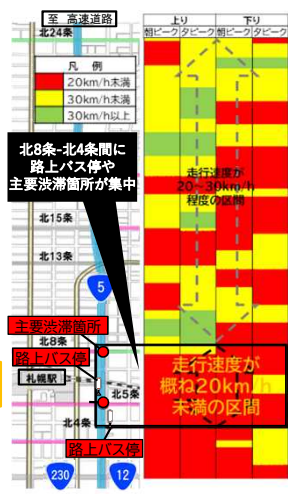


図4 国道5号の混雑状況図

③災害時の交通機能の維持や避難者の受入空間の確保・支援

・北海道胆振東部地震では、帰宅困難者が滞留するなど災害時の公共交通機能確保や避難場所の確保等に課題が生じた（図7）。

・災害時における一時受け入れや避難者の各地への効率的輸送において都心アクセス道路（創成川通）の活用や新幹線、丘珠空港、新千歳空港との連携により帰宅困難者の安全な搬送が必要（図8）。

・暴風雪発生時には、JRの運休が相次ぎ、利用者の混雑が生じ（図9）、空港行バスの臨時便を利用する人で路上にバス待ちの長蛇の列が発生（図10）。



図7 災害時の札幌駅周辺の様子



図8 周辺主要施設との連携



図9 改札前にて混雑が発生した様子



図10 臨時バスに並ぶ人の様子

3. 主な整備効果

効果1 新しいバスターミナルの整備による交通円滑化

・路上に停車するバスによる後続車の阻害、国道5号交差点等の渋滞緩和による走行時間の短縮効果

- ・旅行速度 整備なし約14km/h→整備あり約27km/h※
- ・走行時間短縮効果：約22.8億円/50年 ※路上バス停分散路線における夏期冬期加重平均速度
- ・走行経費削減効果：約1.8億円/50年

効果2 新しいバスターミナルの整備による乗換動線の利便性・快適性の向上

・新しいバスターミナル整備（図10）によるバス停の集約や東西の乗換動線整備による歩行者の移動快適性向上効果（図11）。

- ・歩行者の移動時間約5分→約4分（約1分短縮）
- ・歩行者移動快適性向上効果：約3.5億円/50年
- ・バス待ち時間短縮効果：約3.5億円/50年

効果3 新しいバスターミナルの待合空間整備による快適性の向上

・待合空間の整備によるバス利用者の快適性向上効果（図12）。

- ・バス待合空間の快適性向上効果：約201.4億円/50年

効果4 新しいバスターミナル整備による防災満足度の向上

・新しいバスターミナル整備による地域住民や通勤者に対する防災面での満足度向上効果。

- ・防災満足度向上効果：約84.2億円/50年

効果5 新しいバスターミナル整備による景観の向上及び地球環境の改善効果

・新しいバスターミナル整備による景観の向上や地球環境の改善効果。

- ・景観の向上効果：約1.8億円/50年、
- ・地球環境・大気質の改善効果：約0.1億円/50年

効果6 その他の効果

・札幌駅周辺におけるバリアフリー化の促進、
 ・北海道の魅力発信、
 ・中心市街地の活性化
 ・代替輸送による帰宅困難者への支援、
 ・新たな技術・サービスの発展 etc

■内観イメージ（5-1バスターミナル）



図10 新しいバスターミナルのイメージ

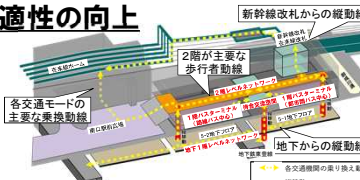


図11 各交通モードの歩行者乗換動線



図12 待合空間のイメージ

【提供：札幌駅交流拠点北5西1・西2地区市街地再開発準備組合】